

# 職業安定広報

Vol. 19 ■ No. 16

〈特集〉 愛隣対策

人間尊重と社会開発

愛隣地区の労働対策

座談会 明るい労働者の街に

1968



6

1

労働省職業安定局編

# 愛隣地区の労働対策



## 一、これまでの対策

古く徳川時代中期からの歴史を有するといわれる愛隣地区は、明治維新以降激動する社会の中にあつて、その時々の問題を反映し、凝結させ、集積させながら発展してきた。

地区の問題は大阪という都市、さらには社会全体の動向と結びついており、社会の変動が大きければ大きいほど不可避的な矛盾や歪みが生じているが、ここに明治以降これまで講じられてきた対策を回顧してみよう。

### (一) 慈善事業から社会政策へ

明治三年に都心部の美観のため、木賃宿を都外に移転させるために宿取縮減

則が制定されたが、その結果としては市内に分散していた木賃宿が集積した。このような対策が行なわれる中で、横山源之助著「日本の下層社会」等が出版され、その実態が知られるにつれて民間篤志家の手による慈善事業が進められ、無宿者の収容、就職あっせんを行なう「友愛社」(明四二年)、「大阪自強館」(明四五年)が設立されるなど、物的救済措置にあわせて教育・思想・信仰が重視され精神的な自立への援助が行なわれた。

明治四二年内務省は大都市に補助金を出し職業紹介所の設置勸奨を行なつていたが、同四五年八浜徳三郎氏が大阪職業紹介所を設置、大正八年には大阪市が当地に今宮職業紹介所及び今宮労働紹介所を開設している。大正七年の米騒動、大正十二年の関東大震災により、職業紹介の必要性が高まり、大正十年には職業紹介法が制定され、同十二年に中央、地方に職業紹介事務局が開設され、公営職業紹介の体系が整えられるが、その起源は当地区や東京・山谷地区の対策に発している。また、大正十四年、政府は六大都市に日雇労働者の冬季失業救済の目的で、大阪市の地下鉄工事など公営土木事業を始めた。このような土木事業は、昭

和四年に至り、失業救済事業として地方にも拡大していった。

明治以来の慈善救済事業、大正から始まったセツルメント事業など民間の力による諸事業は、昭和期に入ると福祉行政の推進公共施設の増加とあいまって、広く社会、労働対策の中に次第にとり入れられ、その一層の展開を促す大きな力となった。

## (二) 治安問題から福祉の設計へ

昭和二十年、戦禍を受けた当地区にはいち早く、テストの仮泊施設、バラックが出現し、不死鳥の如くよみがえりをみせ、その後の経済の急激な復興発展に伴って、地区人口は拡大したが、昭和三六年八月東田町交番焼打事件(第一回釜ヶ崎事件)が発生するにおよび、前年七月東京山谷のマンモス交番焼打事件(第一回山谷事件)と並んであらためて、当地区に対する全国的関心を集めるところとなった。事件発生後大阪府は直ちに、暴力手配師の排除と、青空労働市場における直接募集の援助、その他関連相談業務を行なうため、現地に大阪府労働部西成分室を設置し、警察の協力を求めて暴力手配師の組織の消滅に努めた。昭和三七年には分室の機能拡充を図るため、財団法人西成労働福祉センターを設置し現在に至っている。大阪市も愛隣会館、愛隣寮、生活館、保育園を、府警も地区内各所に防犯コーナーを設置するなど地区改善のために各種の施策を講じてきている。

かかる各行政分野における努力にもかかわらず、昭和四一年には四回にわたり騒擾事件が発生し、地元関係機関はもちろんのこと、中央段階においても抜本的に再検討する段階に入った。

## 二、現状の労働問題

愛隣地区は、簡易宿泊所を中心として多数の日雇労働者が居住し、この豊富な労働力を求めて、求人が集中し、青空労働市場が形成されているところに基本的特徴があり、ここから種々の問題が生じている。

### (一) 労働市場に関する問題点

地区から日々就労する者は約九千人、うち約半数にあたる四、二〇〇人が青空労働市場で結合し、公共職業安定所(大阪港労働・西成出張所)扱は約一、二〇〇人、残りは縁故、親方等の手によって就労していると推定される。

### (二) 職業紹介

現在、西成出張所では一般日雇、日雇港湾、失対紹介対象者の紹介が行なわれているが、①地区日雇労働者は複雑な個人的事情を有する者が多く、公的機関を忌避する傾向が強いこと、②一般のペーシスをはるかにこえる大量の求人求職の集中に依じて、迅速、的確にあつせんする体制や施設に欠けていること、③現在の安定所における職業紹介の方法は、賃金や能力を中心に相対で結合しえないことなどが、労働能力の高い労働者にとって

不利な点があること、等により十分な機能を果しえない状態にあり、職安には比較的高齢者であり重筋肉労働に適さない者がブルされる結果を招いている。青空労働市場あるいは縁故により良質な労働力が供給されている事実は、産業の発展に寄与する職業安定機関の立場から、その機能を再検討し、質量両面にわたって改善の必要があることを示している。

#### ② 青空労働市場

現在、青空労働市場では西成労働福祉センターが、求人者の行なう直接募集を側面的に援助しているが、①求人求職の結合が直接求人者・求職者の相対でなされ、求人・求職条件が不明確のうちに就労し、トラブルが生じ易いこと、②暴力団手配師等の介在により直接、間接的な中間搾取が行なわれることがあること、③公道上で雨ざらし、吹きさらしの中で行なわれること自体に問題があるのみならず、交通の阻害、渋滞の原因となつていること、④需給の調整が円滑でなく、年末年始または不況時の長期アブレを生じやすく、日雇労働者の焦燥・不安を増し、反社会的行動を誘発しやすいつことなどの問題がある。

そこで、これをまず一定の場所に集約し、さらには近代的な労働市場に着実に育成していく必要がある。

#### ③ 労働福祉に関する問題点

当地区に居住する日雇労働者は、当然受けるべき社会保障の適用も受けず、ま

た生活環境においてもめぐまれない者が少なくない。

#### ④ 社会保障

日雇労働に由来する就業の不安定さに加えて、日雇健康保険、日雇失業保険あるいは日雇港湾労働者登録のない者が多く、その生活はたえずおびやかされている。各種社会保障の適用申請、住民登録を行なわない労働者側にも原因がないとはいえないが、雇用主の無理解、行政サービスがこの人々にまで十分浸透してない面のあることも否定できない。

#### ⑤ 生活環境

特に居住環境が劣悪なことが指摘される。簡易宿泊所の空間は狭小であり、保健・衛生・安全・快適性のうえから、人間として生活する必要な条件を満しているものは少ない。割高な宿泊料、生活のうるおいの欠除、肉体的精神的ストレスから逃避するための飲酒娯楽に費される経費も多く、生活設計を狂わせ社会的な適応力を喪失させている。

#### ⑥ 労働能力

就業上、生活上不安定な状態におかれ、しかも社会保障の対象外にある日雇労働者にとってアブレ、疾病、労働災害は、時に再び労働者として回復でき難い痛手となる。労働能力の維持、保全に必要な最低限の条件すら有していないため、極めて短期間のうちにその労働能力を低下させていることは、本人はもとより産業経済発展のうえからも大きな損失とな

つてゐることを考えあわせるとき、福利厚生のための暖かい措置が、地区労働者の特性に即したかたちで、より総合的にとりあげられる必要がある。

### 三、対策の基本方針と経緯

社会全体の発展と対照してみられる地区の日雇労働者に対する施策の立ち遅れに対しては、人間尊重の観点から地区労働者が人間味豊かな生活を形成できるように、社会的適応性を高め、その能力を十分發揮して社会の発展に一層貢献しうる機会と条件を整えることが必要である。

労働省としては当面緊急に措置すべき対策として、「青空労働市場を一定の施設内に集約し、職業安定機関等による就労あつ旋の援助を通じて、悪質求人者の排除、就労の正常化を図るとともに、労働者の福祉に関する諸施策を総合的に実施し、地区労働者の福祉の増進と近代的労働市場の育成を図る」方針を決定した。そこで大阪府労働部と緊密な連携をとりながら、昭和四五年の日本万国博覧会を前に、労働公共職業安定所、労働福祉センターからなる総合施設及び簡易宿泊所を対策の拠点として設置する構想を固め、十一月下阪された山手労働大臣は労働施設用地確保について、左藤大阪府知事、中馬大阪市長に対し要請されていたところ、十二月新任の早川労働大臣あて総合施設用地とその確保について府・市協力してこれにあたる旨知事・市長連

名による申出書の提出があつた。

翌昭和四二年一月、早川労働大臣は現地大阪で開催された知事、市長同席の会談において、府市協力による対策の推進をあらためて確認するとともに、愛隣地区をつぶさに視察され、現地関係者と懇談をもたれるなど、情勢は一段と進展し、ついに昭和四二年度労働省予算の中に実現するに至つた。

愛隣地区の労働施設建設費予算(千円)

労働公共職業安定所 三一、〇一八

労働福祉センター 三〇五、〇〇〇

簡易宿泊所 九一、六八〇

計 四二七、六九八

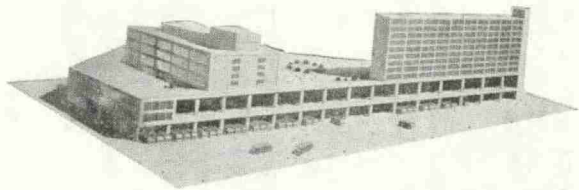
労働施設建設費が他の行政に先じて認められ、また四二年七月前西成労働福祉センター職業紹介部長郡昇作氏が第二回内閣総理大臣顕彰を受けられたことの意味は大きいものがある。

その後建設省はスラム・クリアランスの立場から、当地区の住宅地区改良事業による市営住宅の建設を、厚生省は昭和四三年度から二か年にわたり市営病院の建設を、それぞれ国の補助事業として実施することとなつた。

現在労働施設の建設は関係機関の脈絡一貫した体制の中で進められているが、今後とも世の人々の善意が暖くこの地区をつつみ、その居住者が物心両面で、ともどもに開発自立していくための施策が次から次へと拵がっていくことを期待したい。



# 労働施設の建設



## 大阪労働福祉センター

(1) 総合施設 大阪労働福祉センターは、労働公共職業安定所と労働福祉センターを一体とした労働施設と、その屋上に地区労働者を対象とする市営病院及び住宅地区改良事業のための市営住宅が上積みされる総合マンモスビルである。

### 規模

労働施設 地上四階 地下一階

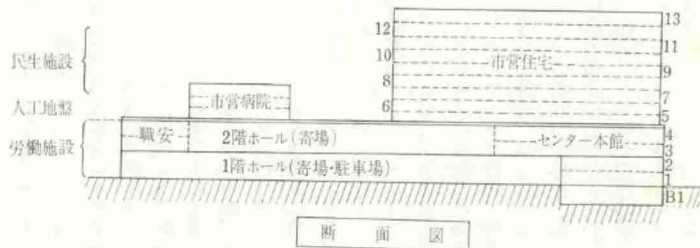
延 約一〇、五〇〇㎡

労働者約五、〇〇〇人 車輻一

〇〇台収容可能

市営病院 三階(五階・七階)

大阪労働福祉センター



診療科目 七科、一〇〇ベッド  
市営住宅 九階(五階・十三階)

2DK 一八〇戸

(2) 用地 建設用地は大阪市西成区

西入船町の国鉄・南海本線「新今宮駅」

前の約六、五〇〇平方米で、大阪府、大

阪市が協力し四三年三月末に約一か年を

費して買収を完了した。職業安定機関の

施設ごとに日雇労働者を対象とする施設

小史

享保年間 名護町一帯に幕府御用米運搬人夫等の木賃宿が発生し「極貧堀」と呼ばれるスラム地区を形成

明治31年 宿取締規則制定——木賃宿、長屋街等下層労働者の集積

明治36年 第五回内国勸業博覧会開催のため名護町から釜ヶ崎に移転

明治45年 財団法人大阪職業紹介所、財団法人大阪自強館が設立

大正8年 大阪市営今宮職業紹介所及び今宮労働紹介所が開設

(社会事業、セツルメント事業活発)

大正14年 日雇労働者救済のため公営事業開始

昭和戦前(国民厚生事業)

30・西成市民館・済生会今宮診療所開設

36・8・1 第一次釜ヶ崎事件

大阪府・府警・大阪市等「釜ヶ崎対策連絡協議会」設置

36・9・1 大阪府労働部西成分室開設

37・10・1 財団法人西成労働福祉センター設置

西成分室を改組発展

(大阪市は愛隣会館・愛隣寮等設置)

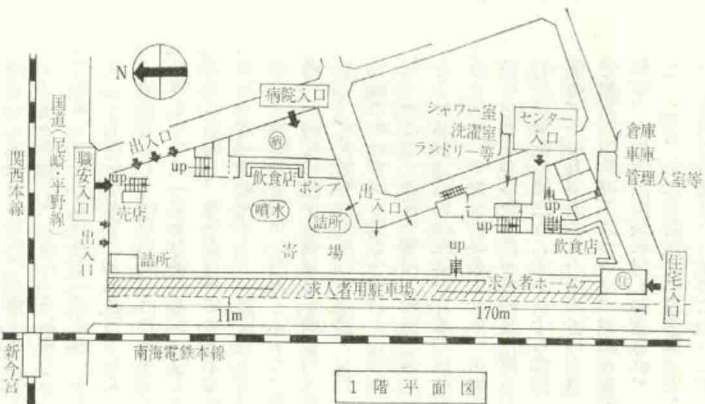
41・3・15 第二次釜ヶ崎事件

41・5・28 第三次釜ヶ崎事件

41・6・21 第四次釜ヶ崎事件

41・7・1 港灣労働法施行

41・8 山手労相閣議で対策の必要性を



は立地条件が施策の成否も左右することが少なくないが、当建設用地は、①現在の青空労働市場に近接しており、②面積的にもは現在の青空労働市場としての利用面積に見合うものであり、③労働者及び車輛の集散に便であることから、労働施設の立地条件を満たすものである。また、労働施設の屋上を人工地盤とし、市営病院、市営住宅を建設する計画は、

自然の土地と人工の土地で用地の倍増を図る方法として、都市の地価高騰による公共施設の用地難を解決する例として注目されている。

(3) 事業費 施設建設にかかる総事業費は概算約二二億円で、うち用地費に約一〇億円、建築費は約一二億円が見込まれている。

総事業費 二二億九、九〇〇

### 内 訳

用地費 一〇億三、〇〇〇

建築費 一一億六、九〇〇

労働施設 四億九、二〇〇

職 安 (八、七〇〇)

センター (三億 五〇〇)

設備費等 (約一億)

市営病院 二億五、三〇〇

市営住宅 四億二、四〇〇

― 単位 万円 ―

(4) 労働施設の内容 労働施設は南北約一七〇米、東西平均二五米の中央でくびれた構造ではあるが、地区環境、労働施設の機能を考慮して設計され、大別すれば、一階は青空労働市場を集約し、就労あっせんを行なうホールで寄場と駐車場で占められ、二階は北側から中央に労働公共職業安定所とその寄場となるホール、南側にセンター本館が位置する。

施設の特徴はホールで、面積約七、五〇〇平方米で労働施設の約四分の三を占め、階高は普通の二階分に相当する六米をとり、換気・採光・照明・色彩等から

青空労働市場により近い条件を与える配慮が払われるほか、労働者の流れを考慮して飲食店・便所等が随所に配置されている。

福利施設としては、相談室・浴場・シャワー室・センタク場・ランドリー・ロッカー室・理髪室・娯楽室・食堂などが設けられているが、従来の労働施設での経験を生かし、日雇労働者に親しまれ、活用され、かつ愛隣地区の日雇労働者のセンターとしてふさわしい施設としたい念願から、ホールの清掃設備、便所の構造、噴水・花壇などに至るまで細部にわたっての配慮がなされる。

(5) 工期 四三年四月からすでに建造物の撤去、ボーリングに着手しており、同年七月には杭工事、十月には本体工事が始まる。労働公共職業安定所部分は四四年三月までに、労働施設全体としては四四年十一月に竣工が予定され、四五年春に始まる日本万国博覧会を前にオープンし、青空労働市場が施設内に集約され具体的な施策が軌道にのることとなる。上積みされる市営病院、市営住宅も四四年度末までには竣工される計画である。

当施設の建設主体は労働省・雇用促進事業団、大阪府・大阪市の四者にわたるため、建設推進の世話役として事業団本部がこれにあたることとなり、現地の大阪支部にも月建設準備体制が整備された。



## 雇用促進事業団

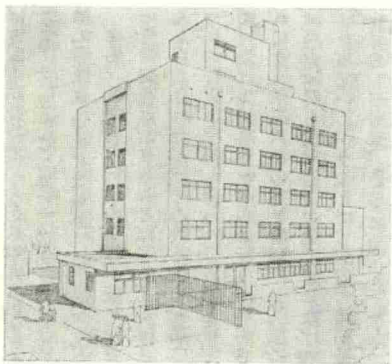
### 簡易宿泊所

地区内には約二万人の収容が可能といわれる民営の簡易宿泊所等が密集しているが、それらは単身日雇労働者が一日の重筋肉労働の疲れを癒すにふさわしい居住環境ではない。公的な施設としては明治四五年からの歴史を有する社会福祉法人「大阪自強館」が唯一のものである。

雇用促進事業団簡易宿泊所は大阪自強館用地内に四三年一月に着工しており、同年十一月の竣工予定である。

規模は地上五階、地下一階、収容定員二六四名で、居室・娯楽室・浴場ロッカ一室が完備され、既設の食堂・医療施設の利用も可能であり、同館のケースワ一ク体制、無料職業紹介事業を通じて、向上的な生活指導が施こされることが期待されている。

(企画課)



発言

41・8・25 橋本建設大臣を囲む不良住宅地区改良懇談会開催。関係各省庁の協議(建設省)

41・9・14 第二回不良住宅地区改良懇談会開催

41・11・18 山手労相下阪・積極的労働対策の推進を言明、府市の協力要請

42・1・5 早川労相が愛隣地区視察・現地関係者と懇談

42・2 四二年度愛隣対策予算内示

労働公共職業安定所・労働福祉センター、簡易宿泊所建設費四億二、七七〇万円

42・4・1 大阪府労働部に職業対策課新設、地区対策・港湾労働・失対事業等を所掌

42・6・2 第六次釜ヶ崎事件(間)

42・6・6 衆院社会労働委員会で西岡

・中山代議士から質問、早川労相答弁

42・7・27 郡昇作氏(前西成労働福祉センター紹介部長)が第二国内閣総理大臣顕彰を受彰

42・7・28 大阪労働福祉センター用地買収交渉に着手

43・1・28 雇用促進事業団簡易宿泊所が大阪自強館用地内で建設に着手

43・3・30 大阪労働福祉センター建設用地の買収完了、四月から建造物撤去ポリング等に着手

43・4・23 大阪労働福祉センター建設について、労働省、府市が同時発表

# 明るい労働者の街に

とき 5月10日

ところ 職業安定局長室

出席者(発言順・文中敬称略)

日本職業協会常務理事	安田辰馬
労働省職業安定局長	有馬元治
大阪府労働部長	山本茂
財団法人西成労働福祉センター 専務理事	松尾純雄
(司会)	塩田企画課長

## 《座談会》



### 職業安定行政発祥の地

塩田 愛隣地区対策につきましては、関係者の善意とご協力により、約二二億円の事業費で大阪労働福祉センターの建設がいよいよ着工の運びとなりました。そこで、本日は愛隣地区の状況や労働対策について、お話しを伺いたいと思います。職業安定行政の歴史は、日雇労働紹介に始まると言われていますが、まずこの辺のことについて安田さんいかがですか。



安田 今言われたことはまさにその通りです。明治の末年に今の職安の前身である公益職業紹介所が発祥しました。これは東京

・大阪はじめ六大都市が主です。仕事は日雇労働紹介が重点になっています。というの、最初無料宿泊所的な施設で、教育的な見地から、止宿人に勤労精神をうえつけるため、いわば付帯事業として職業紹介が行なわれた。たとえば東京の本所深川で救世軍が行なったのが、まさに宿泊所から発祥した職業紹介ですね。大阪でも釜ヶ崎の地域等でだいぶ前から自然発生的な労働紹介がやられている。労働紹介所という専門的な看板を掲げたの

は大阪市が最初で、大正八年九月のことです。少し遅れて同年一月に東京の京橋に開設されました。

**有馬** 職業安定行政の発祥が釜ヶ崎等の労働紹介に始まることは、いま安田さんから話されたが、その後時代の変遷につれて行政の役割も変わり、戦後日雇労働対策は失対事業を中心に行政が展開されてきた。三六年の釜ヶ崎騒動を契機に国も大阪府も積極的な対策を講じなければならぬということ、西成労働福祉センターが出来、さらに四一年になって、この時は港湾労働法の完全施行の問題と万博をひかえて積極的な対策をのぞむ世論が背景にあったが、四一年夏に釜ヶ崎対策を政府の関係各省が積極的に推進しようということになり、労働省が中心となって大阪労働福祉センター構想が三年がかりで実を結び、ようやく着工の運びとなった。とこういう経緯があると思ふのです。

**塩田** この辺のいきさつについて、現地で推進してこられた大阪府労働部長の山本さんから何か……。

**山本** 三六年から、地元では一日も早く地区を整備して明るい労働者の街づくりをやらうと対策をたてましたが、これが容易にはかどらなかつた。しかし幸いにして、有集局長の非常に積極的な姿勢で年度の施設が着工の運びとなった。これは労働行政という立場だけでなく、社会開発という観点からも前進した。とい

うのは労働省のテコ入れで建設省、厚生省も施設をつくることに踏み切り、地元では府市協調という問題ですね。府市が協調して一つの事業をやるのは初めてのケースで、これは地方行政の立場からいっても画期的な施設であると考えています。

### 日雇労働者の特質

**塩田** それでは愛隣地区の日雇労働者にいつも接しておられる松尾さんに、日雇労働者の特質といったことについてお話しをお願いします。

**松尾** 第一にこの地区の問題は、いろいろな意味で社会的な問題として考える必要がある。ここに来る人は、個人的に何か欠陥を持った者が多いのではないかと思う。たとえば家庭の破壊、主に競馬、競輪、賭博、酒、それに刑事犯、こういうことが欠陥となって、俺は日雇でしかやっつけないんだという諦めから、たえず仕事を選ぶわけです。それも日々ですから流動が非常に激しい。毎日少なくとも二千人から三千人は、大阪を中心として奈良・和歌山・京都・兵庫・遠いときには伊豆半島や福井県のはうまでも働きに行くらしい。それから單身者、正確には再单身者ですが、結婚生活に失敗した者や女房を残してきているという者がかなり多い。また年齢的には、三〇代から四〇代の重労働にたえられる働きざかりの層がもっとも多いですね。

塩田 賃金はあがっていますか。

山本 昨年と比較して、西成労働福祉センターに登録している者の日雇賃金は、平均して一〇%くらいあがっていますが、そのうち技能を有する者は二〇%くらいあがっているでしょう。

松尾 私のところから行く労働者で今は一六〇〇円くらい、大工、左官等は二五〇〇円から三〇〇〇円もあがっている。

### 集中か分散か



山本 最近の警察の調べによると、愛隣地区の労働者は約二万人にのぼっている。年間千人位ずつ増えているのが、最近四、五

年の状態だと思います。私が心配なのは、この増え方が将来どのようなになるか、これは予測はできないが、大阪労働福祉センターができることにより、全国からそこへ行けば何でも働き口があるんだということとで殺到しないかということですね。

塩田 集中か分散かというのは大きな論争になった問題ですね。これは始めにして最後まで続く問題だろうと思います。が、我々としては、労働市場としての機能に着目し、集中して就労の正常化をはかり、労働者の福祉を増進するという考

え方に立って対策を進めている。

山本 大阪府でも労働省の方針どおり、とにかくあの地区を近代的な労働市場に育てるんだという構えで、今後の運営をやっていくが、しかし増え方が問題ですね。

有馬 年間純増千人位あると言われたが、このまま増え続けるのだろうか。地域における物理的な限界があるし、大阪産業の需要の限界もあるだろう。それに集まる労働者の特質や流入経路等いろいろな特色があるわけで、私は無限に増え続けるとは思わない。また一方、重労働者気質というのは、そう簡単に抜けきらないし、また良さもあると思う。やはり安定した雇用、正常雇用へ復帰していく、またさせていく努力を積極的にやらなければいけない。これによって、ある程度の新陳代謝が行なわれ、こういう努力を繰り返しながら生活環境を良くしていく。地域住民に多少ご迷惑のかかる点があるかもしれませんが、巨視的に見れば大阪の産業、関西の産業を支えているということもいえるし、結局、人間尊重の面や産業振興の面からいっても、この対策はさらに引き続いて充実していかなければいけないと思う。

松尾 私も有馬局長のいわれるとおりでと思う。

### 人間尊重の立場から

塩田 日雇労働者の特質をお話したい

だいたんですが、昔と変わらないうすか。

**安田** その当時我々も毎日朝早く出勤するわけです。そうすると、あの地域の労働者は、その日その日が真剣ですから、細かいことまで非常に敏感で、たとえばどこかで祭りがあろうな時は、朝早くから詰めているんです。祭りの手伝いの口がないかと……。もう一つその当時驚いたことは、彼らの行動が早いという事です。たとえば、愛知の工事に引いてた者が、いつの間にか大阪に来ています。また良い求人待っているわけです。引っぱり屋もそういうた人夫を知っているから、また引っぱり行ってしまおうというのが当時よくありました。それから当時の木賃宿ですが、今からみるとだいぶ粗末なものでした。それでも木賃宿に泊まるのは良いほうで、多くは青カン（野宿のこと）でした。彼らの人間性をよほど考えてやらないと、今度の施設ができて、これになじまない人が何%かでくる心配がある。

**松尾** どんなに習性があっても古いドヤは南京虫やノミ、シラミ、あれがいるとえらいらしい。だから彼らは古いドヤにはだんだんいなくなる。ドヤが良くなつたと言っても一畳半が一五〇円ですからね。夏は暑くて蒸すので、彼らは青カンを好むのです。

**山本** 今のような状態では、治安上の問題が起こってくる。人間尊重の立場から、立派な施設のもとで、労働者自ら

の姿勢を正していくという考えをもつこと、これが大事だと思います。ここには整然とした労働施設があり、就労あつせんが行なわれているんだということになると、労働者もやっぱりそういう環境になじんでくる。また地域住民もこれをこぞって応援していく。そうすれば、今のように青空で事件が起こると、騒ぎが大きくなるようなことが無くなると思う。我々が心配しているのは、暴動が起こることです。しかもそれが労働者の暴動と言われるのが一番つらい。

### 港湾労働と愛隣地区

**塩田** 確かに今言われたように日雇労働者の特質に対応した対策をやらなければいけないと思います。やはり役所の一律的な考え方ではうまくいかない面があり、この点問題が今後とも起こると思いますが、このことについては何か……。

**松尾** 手配師の問題ですが、今度の施策でこれも一歩前進すると思えます。もし法律で手配師を徹底的に締め出すのなら別ですけど、やはりこの問題は長い時間がかかっても、センターあるいは職安の職員と手配師と話し合った上で、少しずつでも改善を図っていくというようにしないと……。

**有馬** このことは港湾労働法を施行して、法律で徹底的に手配師を排除すると言ってみても、そう簡単にいくものではない。やはり土地柄に合った具体的な施



策を積みあげていかないと解決しない問題ですね。

**山本** 港湾労働の話が出ましたが、大阪では、港湾労働法と愛隣地区の問題は深い関連がある。港湾労働法を完全施行するためには、そのために職安を作らなければいけないが、今は職安、労働福祉センターが完備するまで、臨時的に大阪府でバス輸送をやっている。施設ができれば、完全に港湾労働法の趣旨にそった紹介あっせんができるということで期待しています。バス輸送をやるのは大変なこと、職安の職員や求人連絡員が苦勞してますよ。

### なごやかな環境の中で

**塩田** いよいよこの施設も着工段階に入ったわけですが、これについて山本部長は前から大きな夢の構想を持っておられたのですけれども、労働者やこの地域対策として、施設に特別に配慮された点について何か……。

**山本** 労働者の気分をよわらかにすることが最も大事です。だから施設の真中に噴水でもつくって、中を美しく整え、なごやかな環境の中で紹介がうけられるということが大事ではないかと思う。こういうことが治安上の問題等においても関係してくると思いますね。

**有馬** 緑も必要ですね。

**塩田** この施設については、労働者と施設の清潔を保つための風呂、シャワ

ー、ランドリーおよびホールの洗滌装置など、清潔をモットーとし、それに気分を良くするため天井を高くし、色も明るく、また柱も丸柱にするなど、いろいろ工夫されております。飲食店も簡単な食事が手軽にできるように考えられております。



**松尾** 民間業者との兼ね合いがなかなかむずかしい問題ですね。たとえば町の風呂屋は三〇円で、こちらは二〇円であるという

ような場合、むずかしい問題が起これたらセンターの登録労働者に限って利用させるというような方式も考えないと……。

**有馬** そこに僕は疑問がある。国なり地域社会がつくるこのような施設だけで、すべて解決するわけではないと思うけれども、やはり最低保障的な意味があるわけです。民間業者を圧迫する気持ちはないけれども、地域の特長性なり労働者の特性をよくかみわけて、むやみに利潤をあげるばかりが能ではないのであって、何でも儲けるんだという考え方は、風呂屋にしろ、飲み屋、ドヤにしろ成りたたないのではないかと思う。また、そのような考えを、地区からだんだん

ん排除していくべきであり、そこはやはり筋を通すべきだと思ふ。

安田 ここに大正八年に建てられた宿泊所の写真があるのですが、今からみると何ともないが、当時としてはデラックスですね。中庭を作って気分的なものを考えていますね。

山本 局長にお願いしたいのですが、労働大臣に施設のシンボルになるようなものを書いていただきたいと思つています。大阪の左藤府知事は、私は歌でも俳句でも作ろうか、という話もあるんです。が……。

有馬 これは必要ですね。施設のシンボルのなものを造形的に形であらわすとか、字なり絵なりで……。とにかくこれは真剣に考えましょう。労働者の憩いの場所であり、生活の拠点でもあるので、いろいろな意味でそういう何かが必要ですね。

塩田 職安部分の竣工は来年三月末頃、福祉センターの部分も四五年三月までに本体工事ができ、病院、住宅を含めた全部の完成予定が万博開催の時期にあたる四五年七月頃というスケジュールで、現在仕事を進めております。当面はまず施設を立派につくりあげるといふことが第一だろうと思ひます。では局長、しめくくりにと……。

有馬 先ほどから山本さんが私の名前を出して、今度の施設ができあがったようにご推察いただいているんですが、私

ももちろん熱心にやったことは事実ですけれども、労働省の他に建設、厚生、文部各省、それに警察庁と五省庁にわたる問題ですし、これが全部府の実際の担当窓口として、労働部長の山本さんが中心になってやられたのであって、特に先ほど指摘あったように、府と市の共同作業というのは、言うべくしてなかなかうまくいかないことが多いのですが、今度の愛隣地区対策については、私達の目からみても公平にいつて、うまくいっていると思ひます。この意味でも画期的であり、有意義な施設だと思ひます。冒頭から話が出ておりますように、愛隣地区は職業行政の発祥の地でもあり、職業行政と歴史を共にしてきた感じの強い地区でございます。それに昨年の総理大臣顕彰で西成センターにおられた郡昇作さんが、総理から表彰されたという経過があつて、私共としては総理の表彰職場であるという大きな自負をもつてこの仕事に対処してきております。この施設だけで十分だとは考へておりませんので、今後ますますこの地区の発展、労働者の福祉向上のために施策を充実発展させていきたいと、かように思つております。

塩田 どうもありがとうございます。

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

# 「愛隣病院」

本 田 良 寛



1/50の病院

年目、総合

施設建設の

ボーリング

が始まった

初夏の今ふ

設計図に手入れするという、新しい重要な仕事で医療活動以外に増え、多忙ではあるが、張り切った日々が続いている。

私が昭和三十八年に現地にきて以来、地区の医療状況のあまりにもの立ち遅れと特種性に病院建設を世に訴えてから六

## 希望と誇りを

山 本 茂

懸案のあいりん地区総合労働福祉施設の建設については、大阪府としても「あいりん地区労働対策」として、府政の最重点施策の一つとして、強力にすすめてきたところであります。また、私個人としても、あいりん問題の解決の根本は職業あっせん体制を確立し、地区住民が、希望と誇りをもって生活できるように、また、人間尊重という観点からも、恵まれない労働者の生活環境の改善をしなければならぬと考えてきただけに、その対策が具体的に歩みはじめたことに、あらたな感慨をもっております。これもひとえ

に、地元市民をはじめ、関係各機関のご努力と、ご協力の賜ものと感謝いたしております。

まだほんの第一歩をふみ出したばかりですが、大阪府としても、今後これが完成した場合の労働公共職業安定所および福祉施設の運営については、従来の大都市における日雇労働紹介業務のあり方を十分検討して、その紹介機能を質量両面にわたって、実態に則して改善し、真にあいりん地区労働者の就労の正常化と生活の向上が図られるよう、またあいりん地区労働者に特徴的な福祉面のたちおくれに対処して、労働者の生活援護、社会保険への加入促進など、福祉の向上が図られるよう、きめこまかな配慮と施策を講じてまいりたいと考えております。

(大阪府労働部長)

ん釜ヶ崎診療所」(朝日新聞刊)を世に問ひ、愛隣地区は「にっぽん」の問題としてとらえるべきだ、流転の労働者や、社会からの阻外者たちとも社会保障への適用や、不当労働条件からの開放と彼らの厚生・更生のためにと、福祉対策の導入を思い切り訴えた、まさに背水の陣であった。

昭和四十一年度は、愛隣地区は暴動の一番多発の年であった。それと共に総合対策、ことに病院については決定的な年であった。出版記念会にかけつけて下さった亡父の友人中堂元海軍少将が赤城宗徳先生の顧問であり、その引きで赤城先生に愛隣問題特に病院の必要性を直訴し、直ちに時の鈴木厚生大臣に引き合わせられ、厚生省の仕事として閣議にまで報告され、正式に厚生省の関係者と半日にわたって話し合った。

一方、橋本建設大臣によって招集された不良住宅地区改善懇話会のメンバーに、いきなり電話で委員として追加任命された。(地区の実情を一番良く知っている人をぬかしている、任命すべきだとの某委員の話聞いて、すぐ任命されたのであった。)この会議の席上「建設労働法はまだ出来ませんか」と聞いた相手が塩田課長であった。

この二つの線から、大阪で作成されていた愛隣地区対策の中に、初めて病院計画を導入することが出来、四十一年十一月に大阪府知事、大阪市長等による表彰

を受けることによつて地区の医療問題が大きく認められ出した。

とどめは早川労働大臣の愛隣地区視察であった。視察後の談話と閣議での報告で、異例なことながら労働大臣から厚生問題の重要性が報告され確認され、それと共に大阪府・市の計画も平行して進められた。まだ名前は出せないが、実に多くの人々が、厚生省や労働省・建設省・大阪府・市の人々、財界の方々、有力者たち、そして国会議員の方たちが蔭から後おしして下さったものである。

四十三年度の政府予算案決定の際には、ゼロ査定から異例と言われるほど二転三転と予算が認められ、不足出は大阪府と府とで持つてくれることになった。

園田大臣を初めとする厚生省社会局の人々、中馬大阪市長及び民生部の人々、それに、この病院を認めて下さった国会議員の方々の活躍は実在にありがたかった。

詳しいことはまた書く日が来るであろう。新しい病院、そして新しい総合対策施設についてやした我々の情熱と愛情、これが生かされて運営される総合施設の完成こそ、日本の夢の実現の一つであろう。将来人が変わり、建物も古びようが、これにそそいだ情熱と愛情が消えることのない運営が行われることを心から祈っている。

病院はまだ建っていない。しかし、病院の名はついている、「愛隣病院」と。

## あしたは あしたの風が吹く

— あいりん地区日雇労働者の一日

松 尾 純 雄

あいりん地区の朝は早い。まだ太陽の顔もものぞかない五時すぎには、地下たびをはきしめた自由労働者が、一畳半のドヤの寝ぐらをけつて出る。自由労働者のまたの名は「あんこう」、口をばっくり開けて、えさ——仕事——にとびつくのを具象化した表現らしい。五月はじめての夜明けはさわやかどころか寒い。

旧紀州街道、誰れが皮肉つたのか「釜ヶ崎銀座」を北上して、これと東西に十字交差する平野——尼ヶ崎線の三〇メートルの幹線道路が目ざす青空労働市場だ。皆んなの目はギラつく。いい賃金で、楽な仕事は、今日は土建か、港湾か……あぶれなら、飯場でもいてかましてやるか。

仮りの名のA・B君、彼も毎早朝ここに集る五千名以上の自由労働者の一人だ。A・B君は「わいも、釜の十年選手や」とあきらめともつかない苦笑する。ここでは酔っぱらって、自分からでもしやべらないかぎり、過去はほじくらないのが仁義だ。社会学者の推計によると、労働者の七〇パーセントは郷里からの蒸発人間でないかという。偽名も多い。蒸発しなければならなかったそれぞれの理由で、本名を名づけるのを恥じるもの、家

族や知人の「家出人捜査願い」を逃げまわるもの、一番多いのは、ムシヨの生活をしたり、バクられた経験のあるものなど、西成労働福祉センターの就労カードに記録された半数は偽名でないかと、不審がられている。ただし、A・B君の場合には偽名の必要はない。彼のなまり、楽天的な気いっふから推しても、その言う通り、九州は南の県の農村出身だ。十年前、二十才をすぎた三男ぼうずが、都会でひとはたあげようと上阪しても、決して不思議でない。それがズルズルと釜ヶ崎——改称してあいりん地区——に居ついてしまったのだが。

東西約五〇〇米の青空労働市場の西は、センターの無料あつせん現場（ここから約一〇〇メートル東南に、国と大阪府が職安関係の労働福祉総合施設の建設に着手、青空市場はまもなく解消される）、東端の国鉄環状線新今宮駅東口前が、トビ、大工、左官、屋根屋などの有技能労働者が、それぞれの親方が来るのを待っているたまり場である。毎朝六時から八時まで、前者におよそ三、五〇〇名、後者に一、五〇〇名の労働者がひしめき（夏的好況時は更にふえる）、一日の仕事を探す。このほう大な集団は、初め



て接する人には異様な殺気に似たようなものさえ感ずるだろう。A・B君は西側のセンター寄り場の常連である。一昨日は道路工事に行つて、いささか疲れた彼は、昨日は就労を放棄したので、今日はどうしても行かないと、ドヤ賃にも困る。七時すぎ、港湾運輸Y会社のバスで、大阪港のバラモン荷役へ。

八時すぎ、労働者の多くは散開、路上はその多少が右往左在するのを残して、交通費の多い幹線道路となる。

が、この二つの集団とは別に、あいらん地区から常用や直行で行くもの、公共の労働出張所紹介で行く失対労働者や「民間」就労者もそれぞれの職場に急ぐ。その見積り総数八、〇〇〇から一〇、〇〇〇名、現在、ドヤ住いの労働者が一万五千ないし二万（毎日の流動がお



から夜にかけての街路は、エネルギッシュな荒々しい労働者の息吹きで、すさまじい活気を呈する。

A・B君もこの巨大な渦潮の中の一入、船内荷役でかせいだ一、七〇〇円を腹巻きに入れて、地下足袋の街に帰つて来た。まず胃袋。よく知つたのれんをくぐる。モツの小片三、四枚をさした一串一〇円を十串、それに酒二合は明日の労働力再生産のためにも絶対必要である。

酒は賃金の上昇にともなうぜいたくムード一級酒、値上りして八五円が九五円になつたから、二合で一九〇円（二級酒六五円、焼ちゅう四〇円はまだすえ置き）、満腹の仕上げに、めしの中盛四五円、焼き鯖一皿四〇円、たくあん一〇円、しめて三八五円のちよつとした夕食である。

ここで同君の生活費を追つて見る。ドヤ代一疊半一五〇円、朝めし五〇円のばらずし、一五円のみそ汁、一〇円のつけもの、計七五円、昼めし（自前のとき）一〇〇円、煙草八〇円、小使い二〇〇円、ざつと八四〇円、計算では賃金一、七〇〇円の差引残八六〇円となる。しかし、彼の労働日はおおむね月二十日、生活はいやでも応でも三十日、月収三四、〇〇〇円を三十日平均すると、一、一三〇円、十日に一度は地下足袋（五五〇円）や着るものも考えなければならぬ。結局ガツガツ。パチンコですりでもしたら、直ちに恐慌におそわれる。

参考までに、北海道出身の單身、五十

歳の土工S君がつづつた「あんこの計算表」をお目にかける。

一 収入(日当) 二、〇〇〇円  
一 支出

宿銭(三疊間) 二五〇円

朝食八五円、昼食一六〇円、夕食二〇

〇円、酒代(二級酒二杯、アテ代も含

む) 一八〇円

ハイライト一個八〇円、銭湯代ほか雑

費一五〇円、下着など衣料を買う予定

の金一〇〇円、計一、二〇五円。残七

九五円

しかしS君も就労は二十日、三十日割りすると案でない。なお月十日も休むのは、あぶれの場合もあるが、重労働を癒やす休養をせまられるのが多いという。

A・B君は酔っぱらい労働者が次第に多くなる九時すぎ、めし屋を出る。街も泥酔者がいっぱい。ぐでん、ぐでんで、アスファルトで大の字になりわめくもの、わけもなくぐり合うもの、路上でいびきをかくもの等々。保健所の推定では、わずか〇・六二平方キロの地域に酒を売るスタンド、めしや、バー、酒屋等は約六〇〇軒にのぼり、昭和四二年、西成警察署が自他ともに危険として泥酔保護した件数三、三七五、それに行旅病人の措置一、六六八名、変死人四九名の中にはは酒害による多くの「旅路の果て」が、四十二年保健所が精神病として入院措置したもの一七二名、うち実に一二

二名がアルコール中毒による精神病であって、しかもこれに数倍する、入院を必要とするアル中患者がいると関係者がなげくおそろしさである。

A・B君は幸い生理的に深酒のむかない体質らしい。小一時間もぶらついて、あいりん地区のはぼ中央、でき立てのデラックスな〇〇〇ホテルに宿ることにする。外観はデラックスだが、中に入れば、一疊半の個室はベニヤで仕切られ、上に三五センチか四〇センチの小窓がぼつんとあるきり、新築をえらぶのは、南京虫やのみ、しらみの強襲がないこと、すべて新しく、感触がいいことなど、だから現在二七〇軒を数える簡易宿泊所(ドヤ)は新築に拍車をかける。

しかし一疊半や三疊の個室はやはりわびしい。單身労働者はひと倍のさびしがりや、家郷をしのび、過去をはじらい、生活の自己疎外に胸をかきむしられることもしばしばだろう。ドヤの個室は一万数千の日雇労働者の、スタルジヤと孤独の灰色にいろどられている。そしてA・B君だって人の子、時々は孤独と未来の不安にさいなまれる時がある。が、三十四歳の若さと楽天性とからか、最後に落ちつくセリフは、ここの多くの労働者もそうであるように、「あしたは、あしたの風が吹く。」

(西成労働福祉センター専務理事)

# 現在に不満、健全な社会観

## 愛隣地区日雇労働者の意識調査

昭和四〇年、大阪市立大学愛隣地区研究班が実施した日雇労働者の意識に関する調査をから。(上の数字はパーセント、カッコ内は実数を示す。)

- 1、労働と生活安定について……働けば楽になると答えたもの六八・四、反対一三・三。働いても楽にならないのは社会が悪いが二五・八、これに反対が五一・七
- 2、社会が悪いの反対理由……本人が悪い五六・四(三五)、計画性にとほしい一九・四(一二)、本人の努力不足二二・九(八)
- 3、今の仕事に満足か……不満四九・二
- 4、今の仕事をこれからもつづけるか……かわりたい六六・七(八〇)、つづけて行きたい二五・八(三一)、どちらでもない六・七(八)
- 5、かわりたい理由……仕事と生活が不安四二・五(三四)、自分に適してない一一・三(九)
- 6、つづけたい理由……気楽二九・〇(九)、自分に適している二五・八(八)、仕方がない一九・四(六)、金を貯めるため一六・一(五)
- 7、希望職業……技術工一四・二(一七)、サラリーマン一〇・〇(一二)、精

神労働一〇・〇(一二)、運転手八・三

(二〇)、船員七・五(九)

- 8、つきたくない仕事……本船荷役二〇・〇(二四)、土方一三・三(一六)、特になし三四・二(四一)

9、生活目標……定職につき安定生活二七・五(三三)、金を貯めること二〇・〇(二四)、西成から出ること七・五

(九)、特になし一八・三(二二)

10、なやみ……仕事のなやみ二一・七

(二六)、肉親、家族とのなやみ一三・

三(一六)、定職安定生活のなやみ一

・七(一四)

11、困った時の相談所……労働福祉セン

ター二八・四(三四)、親せき一一・

五、友人か知人一〇・八(一三)、宗教

団体〇。

労働と生活に関連する社会観はいたって公平、むしろ健全すぎるくらいである。「働けば楽になる」は一般社会の平均的意識よりは高いようであるし、「働いても楽にならないのは本人が悪い」ときめつけるのが圧倒的なのは他への依存性が少ない証明であるうか。現在の職業(仕事)、環境に不満なのはうなずけるが、つづけて行きたいもかなりの数、その理由が「気楽であり、自分に適している」は消極的であり、現在の仕事と生活の不満とこの消極性に絶えず苦しみ悩んでいることがうかがわれる。

× × ×



七千人といわれるが、住民登録者数は三万二千人、未登録者は二万五千人であり人口密度八万人をこえる超過密地区である。

地区の内部は、さらに次のような特徴をもつ六つの下部地域から成立するといわれている。①東、西入船町から東田町を中心とした簡易宿泊所街（ドヤ街）ないし簡易



を就労経路別に分類すると、①青空労働市場で西成労働センターの紹介や、直接求人者に紹介をうける者約一万一千人、②縁故、雑方等のあつ旋による「職人」といわれる者約六千人、③大阪港労働公共職業安定所西成出張所で紹介を受ける者約四千人、④地区周辺の小企業に直接就労する者約四千人、といわれる。そのほとんどが男子である。

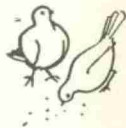
アパート街。②東萩町の公共職安地域で、職安に登録している日雇労働者の住む簡易アパート、間貸家、③西入船町や東四条町のバラック地区。④山王町四丁目の飛田（トビタ）飲食街、料理屋、旅館などに転向している旧赤線地帯である。⑤山王一、二、三丁目の長屋ないし間貸家地帯でヤマ地区といわれるところ。⑥その間に発展した萩之茶屋、飛田本通、今池本通、市場通、山王東通などの商店街である。ドヤ的性格とスラム的性格が混合しており、東京の山谷地区に比較してはるかに複雑で、地域的なまとまりが乏しく、その地域構造のすき間に暴力団等の反社会的集団が介在しやすい。

就業構成は、(A)自営業二千人、(B)常用労働者五千人、(C)日雇労働者二万一千人と推定される。正目的に多い日雇労働者

日雇労働者の年齢構成は二〇歳台二五%、三〇歳台四四%、四〇歳二一%、その他一〇%と圧倒的に青壮年層が多い。また、家族と離別している者も多いのが特徴で、単身者が九五%を占める。流動の激しい簡易宿泊所止宿者についてその出身地をみると、九州二七%、四国一三%、中国七%、近畿一六%、中部北陸七%、関東一二%、東北三%、北海道三%、大阪府下一一%、不明一%と全国的な集散がみられる。

新装開店  
個室寝具毛布  
マットレス入  
完全掃除  
百六十円より百八十円まで  
一泊料金無料サレ入敷こまごま  
お掃除  
鉢の木庄





## 愛隣対策のあれこれ(一)

塩田晋

愛隣対策が国の施策として推進され始めてから一年一〇カ月、労働省の担当者一人として思い出すことは多い。

昭和四一年九月一日、私の現職発令と同時に、企画課の所掌事務にいくつかの変更があり、日雇労働紹介が新たな仕事として加えられることとなった。



岡部失対部長からは当面の重要事項として、石炭対策とともに山谷、釜ヶ崎対策に取り組むよう、強く指示された。前者については石炭鉱業審議会の第三次答申があり、八月に新対策の方向について閣議決定があったからであるが、後者については人間尊重、社会開発をかかげて再発足した第三次佐藤改造内閣により、その直前に起こった暴動に関連して山谷、釜ヶ崎対策がとりあげられたことによるものであった。

特に、大阪の港湾労働を視察して帰られた有馬職安局長は、釜ヶ崎対策の重要性を堀事務次官に進言され、そこで山手労働大臣は、この地区の対策としては労働対策を中心に推進すべきことを閣議で発言され、了承された。

また橋本建設大臣はこれを都市改造の

観点から推進すべく、私的な諮問機関としての不良住宅改良懇談会を二回にわたって開催された。この九月の最後の会合のとき、対策の困難を忠告する発言が多い中で、本田良寛氏はひとり労働対策の必要性を力説しておられた。本田氏については、その前にNHKで「ある人生」という番組で放送があり、たまたまこれを見て興味をもっていたので、「あの人はこのような考えをもっておられたのか」とあらためて親しみを覚えたものである。



橋本建設大臣は会を中座されたが、その際われわれ各省出席者の前にこられ、「ともかく形を変えることだよ。あの地区の労働者には近代的なエレベーターをつけても駄目だという人があるが、エレベーターをまずつくってやれば、最初は迷っていてもやがて皆平気で乗るようになるものだよ。」といわれた。

会の終わりに渋谷政務次官は、「各省必ず一つの具体案を決定し、予算化しよう」と各省事務担当官要望された。特に労働省の私に対しては、「君、労働対策は来年度必ず何かやれよ。」といわれたが、まだ海のものとも山のものともわからぬ

中で、「はい」と返事したときは全く身  
の引きしまる思いがした。

それから早期に起きて山谷を二、三回  
視察し、その実態をつぶさに調べ検討を  
重ねた。山谷については三〇年頃朝の結  
介を見たことがあったので、その印象に  
よって仁戸田補佐や木戸係長と話し、  
最初変装して出向いたのも今となっては  
笑い話である。たしかに、十年間にみら  
れた経済の成長はめざましいものがあ  
り、この地区およびここに住む労働者の  
変化には目をみはるものがあった。

いろいろな議論の中で、特別地区対策  
については「今までいくつもの手を打っ  
てきており、今後ともこの方向で進めば  
よい。特に労働対策については、手をつ  
けないことが最上の対策である」という  
意見すら出て、これには、その後も長く  
尾を引いて悩まされたものである。東京  
の山谷地区については、その後施設の候  
補地までひそかに探していたが、東京都  
労働局長との二回の会談により国として  
の施策は当面考えないこととした。

しかし、大阪の愛隣地区については若  
干おもむきが変わっていた。もちろん、  
その対策を推進すべしとする多くの有力  
な意見があり、その実態も山谷の場合よ  
りもどちらかといえば改善が遅れていた  
面があった。その現地での推進論者の中  
心は、何といても本田良寛氏とともに  
山本大阪府労働部長であった。

(企画課長)



▼都市計画にいかにかにヒューマニティを折  
込むかが、世界共通の現代的課題となっ  
ている。その達成には、問題の本質の深  
い洞察と、セクショナリズムを超えた総  
合的な行政が不可欠である。愛隣地区で  
は、このための「実験」が静かに始まる  
うとしている。(U)

▼労働省玄関左にある展示台に、大阪労  
働福祉センター(完成予定図)の全景が  
装飾され、外来者の目を引く。小川大臣  
も車をおりられ台の前に立ち、笑顔で秘  
書官に(立派になりますねえ)言われ  
た。六月一〇日まで展示される。(K)

▼本号は愛隣特集。あいりん、あいりんの  
一色である。原稿締切りになって、愛  
隣の意味がわからなくなった。広辞苑に  
もない。やっと、自由国民社版・現代用  
語の基礎知識のなかに「大阪のストラム街  
釜ヶ崎の新しい町名。愛隣会館を中心  
にお互いに石をぶつけ合うのはよそうとい  
うわけだそうである。」とあった。四三  
年度職安行政の重点施策でも、地域の特  
性に対応した雇用対策の推進が掲げられ  
ている。特集の狙いもそこにある。(O)

詩



労働市場風景

松原 忍

釜ヶ崎の北の一角  
東四条交叉点附近の街路

ここは いびつな労働市場  
青空紹介所

ここでは 飢えたる  
無数の眼が交叉する

毎日早朝から多数の求人者がつめかけ  
数千の労働者が仕事を求めて集まる

灰色の一群に混って  
關手配師が跋こする

さあーいこ いこ

ナンバワンや ナンバワンヤや  
こうざいのナンバワンやで

さあーいかんか いかんか  
印度から来た雑貨や

五時までで千三百円やで

さあーいこ さいこ さいこ

オールナイいかんか オールナイや

鳶いこ 鳶いこ

兄ちゃん 土方いかんか  
小回りで千三百円や

さあーいかんか いかんか  
やりじまいや やりじまいや  
千六百円や

さあーいこ さいこ さいこ

かたづけや かたづけや

パイプや パイプや

たるきやでー

さあーいこ さいこ さいこ

あと三人やで

ふすまいこ ふすまいこ

さあーいこ いこ

でっちや でっちや

おっちゃん かべぬりいかんか

さあーいこ さいこ さいこ

雑貨や かたづけや

食べてる 食べてる

がつがつ食べてる

なんでもあるぜ

みそ汁十円

にぎりめし一個十円

天ふら十円

大めし五十円

ばらずし三十円

うどんそば三十円

カレーうどん四十円

いなりずし一個十円

急げ急げ

ぼやぼやしてたらアブレるぞ

兄ちゃんこぼちいかんか

五時までで千三百円や

だらいいいかんか だらいいいかんか

積荷いこ 積荷いこ 千八百円いこ

兄ちゃん 掘り方いかんか

さあーいこ さいこ さいこ

あともうひとりやでえ

ひとりやでえ

自家用車が

すすけた男を乗せて

北へ走った

やがて 空白となった地帯に

くたびれた地下足袋のような

ニヒルが広がる

ガード下をくぐり

街中に浸透していった

—愛隣文芸同人雑誌

「裸」五七号より

(松原氏は同誌編集主幹)

### 職業安定広報

次号予告

全国労働主管部長会議における  
三治事務次官あいさつ、有馬職業安  
定局長説明その他

職安法規則を改正 官庁の中高年  
者就職促進で雇用率を設ける

技能五輪日本組織委員会の発足

窓口日記……紹介係

米国のコンピュータ事情

北から南から……八戸安定所

職安風土記……宇佐安定所

### 職業安定広報

6月1日号

定価一部三五円 送料六円

一年分 一、三六〇円(送共)

昭和43年5月28日 印刷  
昭和43年6月1日 発行

労働省職業安定局

雇用課 細野 正

編集人

発行人

雇用問題研究会

印刷所

理専長 西村武彦  
誠之印刷株式会社

文京区小日向二(一八)四

社団法人

雇用問題研究会

発行所

東京都千代田区神田  
須田町一丁目二八

電話東京(256)二七二一(番表)